

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

生徒一人ひとりが「学び」を通じて自己肯定感を醸成し、将来の自己実現のためのスキルを身につけられるよう「基礎学力の充実と資格取得」に力を入れ、地域社会での学びを深めるとともに、実学を重視した教育活動を行うことで「地域社会に貢献できるビジネスパーソン」「超高齢化社会を支える介護・福祉分野のプロフェッショナル」を育成する。さらに、両学科の特性を生かして、地域社会の課題に取り組む課題探究型学習を通じて少子高齢化社会に対応した持続可能な社会の創り手を育む教育の推進をめざす。

- (1) 高校生活のあらゆる機会を通じて教養を深め、豊かな情操を養う。
- (2) 学習の基礎・基本を大切に専門知識を身につけ資格の取得をめざすと同時に、マナー教育を徹底し人間尊重の精神と態度を養う。
- (3) 自己の進路への自覚を深め、目標に向かい自主的に努力する態度を養い、生涯学習の観点から自己教育力を身につける。

2 中期的目標

R4 生徒の真の学力を育む淀翔プロジェクト～資格取得だけに留まらない持続可能な社会の創り手をめざして～
令和4年度に「学校経営推進費」の認定を受け、短焦点液晶プロジェクターを商業科3年生5クラス、福祉ボランティア科1～3年生3クラス（既設プロジェクターをゼミ室に移設）に設置。インターフェイスボックス設置。マグネットスクリーン購入。費用2,587,200円

1. 資格取得率
 - (1) 商業科では卒業時に、流通科学コース 全商ビジネス計算実務検定1級、会計科学コース 全商簿記検定1級、情報科学コース 全商情報処理検定（ビジネス情報部門）1級の取得率をそれぞれ20%以上、全商2級の取得率をそれぞれ70%以上とする。
 - (2) 福祉ボランティア科では介護職員初任者研修100%、国家資格介護福祉士取得率を95%以上とする。
2. 心豊かな職業観を育む体験学習
 - (1) 生徒アンケートによる「販売実習（介護実習）を通じて、ビジネス（介護福祉）に関する仕事の魅力を理解することができた」の肯定的回答率70%以上をめざす。
3. 持続可能な社会の創り手を育む教育（ESD）
 - (1) 連携団体や地域企業、行政などのステークホルダーによる「社会的価値がある活動である」の肯定的回答率70%以上をめざす。
4. 3年間の研究成果について他校への発信・普及
 - (1) 公開授業・実践報告会の実施、HPでの発信および他校への指導助言

1. 確かな学力の定着と学びの深化

- (1) 授業改善に取組み、学習の基礎基本となる資質や能力の定着をはかり、「確かな学力」を確立する。

※ 目標：授業アンケート「(項目8)興味関心」の肯定的回答率について75%以上（R2:69.6%、R3:70.9%、R4:77.3%）を維持する。

ア 授業改善のための指針として常にPDCAサイクルを活用し、「わかる授業」「魅力ある授業」を構築する。

イ 教員自らが研究や研修活動を推進し、授業の質の向上をめざす。

ウ 授業アンケートの結果に対して分析を行い、問題点を明確にして授業改善に取り組む。
- (2) 主体的・対話的で深い学びを実践し主体性を養うとともに、現代的な諸課題に対して求められる資質や能力、知識や技能を育成する。

※ 目標：授業アンケート「(項目2)知識技能」の肯定的回答率について75%以上（R2:71.9%、R3:73.4%、R4:79.1%）を維持する。

ア あらゆる教育活動に主体的、対話的な活動を組み入れ、思考力、判断力、表現力を養い、積極的に自己のキャリア蓄積にいかす。

イ 観点別評価により学習の過程や成果を評価し指導の改善や学習意欲の向上をはかるとともに、生徒の資質、能力を育成する。

ウ 1人1台端末の導入により、ICT機器を活用した効果的な授業実践に取り組む。
2. 教育活動の充実を図り、少子高齢化社会に対応した持続可能な社会の創り手を育む教育（ESD）の推進
 - (1) 職業教育を充実し、働きがいのある「生きがい」としての仕事及び起業に必要な技能を備えた人材の育成

ア 会計科学・情報科学・流通科学・コミュニケーション科学の各コースに応じた専門的な知識、技術の習得をはかり、各種検定の資格取得をめざす。

※ 目標：卒業時に流通科学コースでは全商ビジネス計算実務検定1級合格率25%以上（R2:22.0%、R3:60.4%、R4:86.5%）会計科学コースでは全商簿記検定1級合格率20%以上（R2:30.8%、R3:13.0%、R4:47.1%）、情報科学コースでは全商情報処理検定（ビジネス情報部門）1級合格率20%以上（R2:8%、R3:10.0%、R4:7.9%）を維持する。

イ 「介護を必要とする幅広い利用者に対する基本を踏まえたより専門性の高い介護を提供できる能力」を身につけるために、国家資格である介護福祉士の資格取得をめざす。

※ 目標：資格合格率 介護職員初任者研修 100%を維持する。（R2:100%、R3:100%、R4:100%）国家資格介護福祉士 95%以上をめざす。（R2:97.3%、R3:100%、R4:100%）

ウ ICTを活用した「主体的な学び」を効果的に取り入れ、さまざまな学習形態を組み合わせることにより、生徒の学びの深化を図る。

エ 販売実習や介護実習での体験的な学習を通じて、働くことの本質に気づき、心豊かな職業観を身につける。

※ 目標：生徒アンケートによる「販売実習（介護実習）を通じて、ビジネス（介護福祉）に関する仕事の魅力を理解することができた」の肯定的回答率を令和7年度までに70%以上を維持する。（R5年度65%、R6年度70%以上）（R4:70.3%）
 - (2) ICTを効果的に活用して課題探究型学習に取り組む、未来を担う人材を育む教育

※ 目標：連携団体や地域企業、行政などのステークホルダー（外部評価）による「社会的価値がある活動である」の肯定的回答率を令和7年度までに70%以上を維持する。（R4:75.0%）

ア 大規模販売実習である「淀翔モール」を通じてソーシャル・アントレプレナー（社会起業家）の育成をめざす。

イ 健康と福祉の視点から、いつまでも住み続けられるまちづくりに向けた創り手の育成をめざす。

ウ ICTを活用して、学校が「ビジネス社会とつながる」と「地域福祉とつながる」ための教育実践に取り組む。
- (3) ビジネスや福祉に関する特色ある教育活動を情報発信し、小学生・中学生を含む地域の方々の学校への理解や関心を深め「地域に愛される淀商」をめざす。

ア 体験入学や学校説明会を充実させるとともに、さまざまな方法を活用し学校の情報を発信する。

イ 高齢者施設での介護実習や「with コロナ」に対応した新たな地域福祉活動やボランティア活動を通じて地域密着型の学校をめざす。

3. 将来をみすえた自主性・自立性の育成

- (1) 社会人基礎力の育成

ア 基本的生活習慣を確立し、規律ある行動ができる社会性豊かな生徒を育成する。

イ 生徒会活動を活性化し、体育祭、文化祭行事などの体験的活動を充実させる。
- (2) 自主性や自立性を育む進路指導の推進

生徒一人ひとりの希望進路の実現に向けて自ら目標を立て挑戦し続ける態度を養い、その過程で培われる自分を取り巻くすべての人に感謝する気持ちや思いやり等、「生きていく」うえで必要な人間性を養う。

※ 目標：就職については、一次内定率70%以上（R2:70.2%、R3:67.5%、R4:75.0%）、最終的には就職希望者100%（R2:100%、R3:100%、R4:100%）の内定獲得を実現する。進学希望者については進学最終合格率 100%（R2:100%、R3:100%、R4:100%）をめざす。

ア 進路希望調査をもとに個別面談を実施し希望進路の把握に努めるとともに、保護者説明会を定期的に開催し家庭の協力体制を得ながら必要な支援を適切に行う。

イ 就職希望者については応募前職場見学に参加し職種や会社等の実態を事前に見学し、就職試験や面接選考試験への準備と心構えや労働の意義を学ばせる。

ウ 進学希望者については学習の基礎、基本を大切に、3年間で取得した資格や専門知識を商業科推薦入試や福祉科推薦入試に活用し進学をめざす。

4. 豊かな心と健やかな体の育成

- 人間尊重の教育に充実を図るとともに生徒一人ひとりの個性と能力を伸ばし、社会とその変化に対応し自立できる人材を育成する。
- ※ 目標：生徒向け学校教育自己診断の肯定的回答率で、「一人ひとりの適性に合った指導がなされている」を75%以上（R2:63%、R3:78.2%、R4:79.8%）、「先生は子供の悩みや相談に親身になって応じてくれる」を75%以上（R2:64%、R3:79.5%、R4:80.6%）に維持する。
- ア すべての教育活動を通じて人間尊重の精神と態度を養い、豊かな心を育む教育を推進する。
- イ お互いを尊重し、個性豊かな文化の創造をはかる、また、未来を切り拓く主体性のある人材を育成する。
- 基本的な生活習慣やコンプライアンスを遵守できる社会性・協調性・協働性を兼ね備えた生徒を育成する。

<p>ウ 支援学校との校種間連携を実施する。部活動や学校行事、生徒会行事を通じてともに活動し、お互いを尊重する人間性や社会性を身につける。</p> <p>5. 学校の組織力を向上させるための取組み</p> <p>(1) 学校力向上のための教職員研修の充実</p> <p>ア 教職経験の少ない教員のスキルアップを図るためテーマ別の研修会を開催する。また、授業アンケート結果の分析や管理職による授業観察を実施する。</p> <p>イ 教職員研修を企画し、計画的に実施する。教科横断型の相互授業見学を始め、授業改善に関連して研究授業を実施する。</p> <p>(2) 教職員の働き方改革</p> <p>ア 時間外勤務時間の縮減のため、教職員への啓発と意識改革を図る。</p> <p>イ 業務のスリム化やさまざまな方策による働きやすい職場環境づくりを進める。</p>

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和5年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>生徒の真の学力を育む淀翔プロジェクト R4 資格取得だけに留まらない持続可能な社会の創り手をめざして</p>	<p>(1) ICTを活用した基本的かつ専門性の高いビジネス教育・介護福祉教育の指導方法の開発</p> <p>(2) 専門的知識や技術をいかして、心豊かな職業観を育む体験的な学習の研究</p> <p>(3) ICT社会・少子高齢化社会に対応した持続可能な社会の創り手を育む教育(ESD)の実践</p>	<p>【専門的知識や技術をいかして、心豊かな職業観を育む体験的な学習の研究】</p> <ul style="list-style-type: none"> ICT委員会が中心となり、ICT機器やEdtechを活用した授業や指導計画の改善と教員研修を実施(4月～3月) 社会起業家教育先進校に見学および校内報告会を実施(8月・9月) 両学科におけるICTを活用した「ビジネス社会とつながる授業」「地域福祉とつながる授業」を実施 →ICTコンサルタントと連携し、遠隔地(生産・製造現場、介護現場)とインターネットで繋げた実践的な授業の研究・実践(4月～3月) 商業科では、社会起業家による特別授業(年2回以上)および第10回淀翔モール(大規模販売実習)における集客率、顧客満足度、地域貢献度の前年度比120%以上をめざす。 商業科では、ICTコンサルタントの支援を受けてオンラインショップ開設に向けた特別授業を開催(年2回) 福祉ボランティア科では、介護福祉現場に関する知見を強化するため海外産業人材育成協会と連携して外国人介護福祉士候補者との交流授業を実施(10月) 生徒アンケートの実施および連携団体や地域企業、行政などのステークホルダーの評価(2月) 資格取得率、生徒アンケート、ステークホルダーの評価結果を分析し、次年度に向けた検討(3月) 	<p>1. 資格取得率</p> <p>(1) 商業科では卒業時に流通科学コース全商 ビジネス計算実務検定1級、会計科学コース全商簿記検定1級、情報科学コース全商情報処理検定(ビジネス情報部門)1級の取得率をそれぞれ18%以上とする。2級の取得率を68%以上とする。 ビジネス計算実務検定 1級[R4:86.5%] 2級[R4:47.5%] 全商簿記検定 1級[R4:47.1%] 2級[R4:38.8%] 全商情報処理検定 1級[R4:7.9%] 2級[R4:47.0%]</p> <p>(2) 福祉ボランティア科では介護職員初任者 研修100%[R4:100%]、国家資格介護福祉士取得率を95%以上[R4:100%]とする。</p> <p>2. 心豊かな職業観を育む体験学習</p> <p>(1) 生徒アンケートによる「販売実習(介護実習)を通じて、ビジネス(介護福祉)に関する仕事の魅力を理解することができた」の肯定的回答率65%以上を維持する。</p> <p>3. 持続可能な社会の創り手を育む教育(ESD)</p> <p>(1) 連携団体や地域企業、行政などのステークホルダーによる「社会的価値がある活動である」の肯定的回答率70%以上を維持する。</p>	
<p>1 確かな学力の定着と学びの深化</p>	<p>(1) 授業改善による「確かな学力」の確立</p> <p>ア 授業改善</p> <p>イ 研修活動</p> <p>ウ 課題の明確化</p>	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業力向上を目的として、教科横断的な授業見学週間を6月と11月に設け、授業改善に取り組む。 授業のユニバーサルデザイン化を進め、基礎学力の充実に取り組む。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業参観を実施し、教員の授業力の向上と授業改善への取組みに対する保護者への情報発信を行う。 教育センター主催で開催される各教科の研修会に参加する。 <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業アンケートの結果や課題をフィードバックし詳細に分析することで、授業改善につなげる。 	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員向け学校教育自己診断で授業見学を行った教員70%以上をめざす。[R4:55.0%] 授業アンケートの肯定的回答率「授業の内容はわかりやすい」70%以上を維持する。[R4:73.3%] <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者の参観数100名以上[R4:105名] 研修会への参加10回以上[R4:14回]をめざす。 <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業アンケートの肯定的回答率「(項目8)興味関心」70%以上[R4:77.3%]を維持する。 	

	<p>(2) 新学習指導要領の確実な実施</p>	<p>ア 思考力・判断力・表現力を身につけるための教科活動</p> <p>イ 観点別学習による学習意欲の向上</p> <p>ウ ICTを活用した授業実践</p>	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 全教科において、「主体的で対話的な深い学習」やプレゼンテーション、発表などを取り入れた学習を实践する。 さまざまな形態で学習し、多くの知識や技能を習得するとともに思考力・判断力・表現力を身につける。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 単に定期試験での点数のみの評価ではなく、観点別学習による学習やレポート、発表等々、生徒の教育活動の成果をさまざまな角度から評価することで、生徒が努力した成果を見える化し、学習意欲の向上につなげる。 <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ICTを活用したわかりやすく、工夫された授業を1人1台端末を使用し実践する。インターネットにつながった状態での授業など、生徒の興味や関心を引く授業を取り入れる。 	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業アンケートの肯定的回答率「(項目9)知識技能」70%以上[R4:79.1%]を維持する。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒向け学校教育自己診断の「各教科の評価法(成績のつけ方)について理解している」の肯定的回答率70%以上を維持する。[R4:83.1%] 教員向け学校教育自己診断で発表や発表を取り入れた授業を実施した教科の割合を全教科の70%以上を維持する。[R4:80.6%] <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員のICTを活用した授業の実践率を75%以上を維持する。[R4:82.5%] 	
<p>2 質の高い教育を通じて、持続可能な社会の創り手を育む教育(BSD)の推進</p>	<p>(1) 職業教育を充実し働きがいのある人間らしい職業観と知識・技能兼ね備えた人材の育成</p>	<p>ア ビジネスに関する専門知識・技術の習得</p> <p>イ 介護福祉に関する専門知識と技術の習得</p> <p>ウ ICTを活用した生徒の主体的な学習の取組み</p> <p>エ① 商業科教育の特色化と魅力化を図る</p> <p>エ② 介護福祉の魅力を学ぶ「介護実習」</p>	<p>ア ビジネスに関する各種検定の取得、各コースに応じた専門的知識・技術の習得に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ビジネスマナーを学習し、実践に向けた外部講師による講演を実施するなど、社会人として必要な力を身につけさせる。 各コースにて商業のヒト・モノ・カネ・情報の4分野を専門的に学ばせ、より上級の検定取得に向けて補習等も実施し学習をサポートする。 教授型になりやすい従来の商業検定科目の授業改善として、ICTを活用した効果的な授業の実践や生徒の理解度が増し、お互いが教え合い、学び合う授業方法への変換を行うことで、資格の取得率の向上をめざす。 <p>イ 福祉に関する基本的な知識と技術の習得を図るとともに、最先端の介護知識や技術を兼ね備えた実践力を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 2年次に、介護職として働くうえで基本となる資格である介護職員初任者研修講座を開講し、資格取得をめざす。 3年生の12月から国家試験合格に向けて2班編成による授業や放課後に補習を行う。 <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ICTを活用し自ら調べ探究する時間を授業内に設定する。 タブレット端末の録画・再生機能を活用し、視覚的に自らの介護技術を視聴し振り返りを行うことにより、介護技術の向上を図る。 <p>エ①</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校設定科目「アントレプレナーチャレンジ」を通じて、起業、仕入、販売、決算等までの一連のビジネスの流れを学び、大規模販売実習「淀翔モール」を通じてよい職業観を育む。 「淀翔モール」において福祉に関連したブースを設置し、募金活動等のボランティア活動を行い、福祉ビジネスについて令和6年度に向け検証を行う。 <p>エ②</p> <ul style="list-style-type: none"> 福祉科目「介護実習」では、高齢者施設等での実習を通じて、校内で学んだ知識や技術を統合化し、実践力を高めるとともに、利用者との関わりを通じて介護福祉の魅力やよりよい職業観を育む。 介護施設での実習がより高いレベルのものとなるよう、授業では常に介護現場を想定した実習を行い、また、理解度や技術到達度が芳しくない生徒については、補習や特別講義を実施する。 	<p>ア・ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> 1年次全コース 全商商業経済検定3級55%合格率[R4:53.9%] 全商簿記検定3級70%合格率[R4:77.0%] 全商情報処理検定3級65%合格率[R4:62.4%] 全商ビジネス計算実務検定3級60%合格率[R4:58.4%] 全商ビジネス文書検定3級75%合格率[R4:70.8%] 2年次コミュニケーション科学コース 秘書検定3級60%合格率[R4:48.4%] 3年次流通科学コース 全商ビジネス計算実務検定1級18%合格率[R4:86.5%] 3年次会計科学コース 全商簿記検定2級68%合格率[R4:38.8%]1級18%合格率[R4:47.1%] 3年次情報科学コース ビジネス情報部門 全商情報処理検定2級68%合格率[R4:47.0%]1級18%合格率[R4:7.9%] <p>イ・ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ICTを活用した発表会を各学年に1回以上実施する。[R4:6回] 介護職員初任者研修合格率100%を維持[R4:100%] 国家資格 介護福祉士合格率95%以上[R4:100%] 12月中旬から1月下旬にかけて、土曜補習を3回以上実施する。[R4:4回] 生活支援技術の実習において、技術の向上を目標として5項目、5回ずつ合計25回以上タブレットを活用する。[R4:25回] 生徒アンケートによる「販売実習を通じて、ビジネスに関する仕事の魅力を理解することができた」の肯定的回答率70%以上を維持する。[R4:70.8%] <p>エ①</p> <ul style="list-style-type: none"> 「淀翔モール」での生徒アンケートによる「仲間とともにより良い結果を出すための方法を考え、役割分担して取り組むことができた。」の肯定的回答率80%以上を維持する。[R4:86.0%] 福祉関連ブースを1店設置する。[新規] <p>エ②</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケートによる「介護実習を通じて、介護福祉に関する仕事の魅力を理解することができた」の2年生における肯定的回答率70%以上をめざす。[R4:69.8%] 実習指導者アンケートによる「排泄介助・食事介助・入浴介助の基本的な介護技術を行うことができる。」の肯定的な回答率を3年生で65%以上をめざす。[R4:60.8%] 	

<p>(2) ICTを活用して課題探究型学習に取り組み、未来を担う人材を育む教育</p>	<p>ア ソーシャル・アントレプレナー(社会起業家)の育成</p> <p>イ 住み続けられるまちづくりに向けた創り手の育成</p> <p>ウ ICTを活用して学校が「ビジネス」「地域福祉」とつながる教育実践</p>	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和4年度からの新たな取組みとして、学校設定科目「アントレプレナーチャレンジ」を通じて、持続可能な17の目標(SDGs)から毎年、地域課題に即したテーマを1つ選び、ビジネスを通じて課題解決に向けた課題探求型学習に取り組む。 起業家・経営者など外部講師として招き、これからの未来を切り拓く社会起業家の重要性を学ぶ。 大学教授や中小企業診断士等と連携し、経営アドバイザーとして生徒の活動を助言・評価する仕組みを構築する。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 福祉科目「介護実習」では、利用者一人ひとりの心豊かな生活の実現に向けて、国際生活機能分類(ICF)の視点を持った自立支援を資するケアプランの作成を行う。 高校での介護福祉の専門性をいかして、高校生が地域住民対象に介護教室または介護予防体操を実践する。 社会福祉協議会と連携して、介護福祉の理解者・応援者を広げる地域福祉活動を実践する。 <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒が淀翔モールで取り扱う商品知識を向上させるために、Web会議システムを活用して生産者(製造者)の声を聞く機会を設けるなど商品の魅力などをリサーチし、購買者が求めるニーズに対応できる能力を育成する。 「withコロナ」に対応するために、Web会議システムを活用した新たな地域福祉活動の実践を行う。 	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 連携団体や地域企業、行政などのステークホルダー(外部評価)による「社会的価値がある活動である」の肯定的回答率70%以上を維持する。[R4:75.0%] 大学教授や中小企業診断士等と年3回以上連携し、経営アドバイザーとして生徒の活動を支援する。[R4:2回] 生徒アンケートで経営アドバイザーによる「助言や評価は今後の活動に役立つ」の肯定的回答率を70%以上とする。[R4:72.8%] <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 実習指導者アンケートによる「国際生活機能分類(ICF)の視点を持った自立支援を資するケアプランが作成できる」の肯定的回答率を3年生で65%以上を維持する。[R4:68.2%] 地域住民対象に介護教室または介護予防体操を年1回以上実践する。[R4:1回] 連携団体や実習施設、行政などのステークホルダー(外部評価)による「社会的価値がある活動である」の肯定的回答率70%以上を維持する。[R4:75.0%] <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> 商品知識を向上させるために、Web会議システムを活用して生産者(製造者)の声を聞く機会や調べ学習の時間を設ける。 「withコロナ」に対応するために、Web会議システムを活用した新たな地域福祉活動の実践を年1回以上行う。[R4:2回] 	
	<p>(3) 特色ある教育</p> <p>ア ホームページ等を活用した最新学校情報の発信</p>	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 体験入学や学校説明会を実施し、中学生やその保護者からの意見を取り入れ、より充実した説明会につなげるとともに来場者を増やすため、案内等をホームページに掲載し、教員の中学校訪問や生徒の「中学里帰り訪問」を実施するなど情報を計画的に発信する。 日常の教育活動、学校行事、部活動の活動状況等をホームページに掲載し、学校教育活動の情報を数多く発信する。 メール配信システムを活用し保護者への学校行事の活動日程や内容、方法等の情報発信と周知を行う。 	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校説明会累計参加者数650名以上 [R4:615名] ホームページの更新回数300回以上 [R4:350回] 保護者への行事開催メール等の配信回数15回以上 [R4:5回] 	
<p>活動の幅広い情報発信</p>	<p>イ 介護実習、福祉活動、ボランティア活動を通じた学校作り</p>	<p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 福祉現場への即戦力となる人材育成の必要性から、地域連携のもと施設実習を各学年で実施する。 地域の福祉施設での活動やボランティア活動を実施し介護知識や技術を深化させる。 	<p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設実習の実施(1年生12日間・2年生20日間・3年生20日間) [R4:1年生12日間・2年生20日間・3年生20日間] ボランティア活動回数 5回以上 [R4:8回] 	
<p>3 将来をみすえた自主性・自立性の育成</p>	<p>(1) 社会人基礎力の育成</p> <p>ア 社会性豊かな生徒の育成</p> <p>イ 生徒の主体性を育む生徒会活動を活性化させる</p> <p>ウ 部活動への参画</p>	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会人基礎力を高めるために「遅刻をしない、時間を守る」「服装髪等の校則を厳守できる」など、基本的な生活習慣を確立する。 遅刻の実態調査と原因分析を行うことにより遅刻を減少させ、生活規律を向上させる。 「挨拶ができる」「正しい言葉遣いができる」「敬語ができる」など、社会性のある対人関係やコミュニケーションがスムーズに取れる生徒を育成する。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校行事やボランティア活動など、体験的活動の充実を図るとともに、生徒の自主的な運営を支援する。 <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> 体験入部や部活動紹介を実施し、また、さまざまな角度から検証した部活動の意義等を機会あるごとに全生徒に伝え、部活動への入部率を上昇させる。 	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒向け学校教育自己診断「基本的な生活習慣が確立できている」の肯定的回答率を75%以上とする[R4:82.9%] 遅刻者数年間1,300名以下[R4:1,772名] 生徒向け学校教育自己診断における「先生や外部からのお客様に対して挨拶ができる」の肯定的回答率80%以上を維持する。[R4:93.8%] <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒向け学校教育自己診断「生徒会活動・委員会活動・HR活動は活発に行われている」における肯定的回答率75%以上を維持する。[R4:89.7%] <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> 部活動への入部率45%以上をめざす。[R4:37.8%] 	
	<p>(2) 自主性や自立性を育む進路指導</p> <p>ア 希望進路実現のための家庭との連携</p> <p>イ 就職希望者への取組み</p> <p>ウ 進学希望者への取組み</p>	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 進路希望調査をもとに3年生全員を対象に個別面談を行い、保護者に適切に情報を提供し希望進路の把握に努める。 外部講師による講演会や相談会を実施し、進路実現に向け備えておくべき必要な知識や技術を身につけさせる。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 就職に必要な情報をHRや教育懇談、就職面談をいかしてリアルタイムに発信する。 放課後に履歴書の作成指導や面接練習等を実施し、希望企業への内定をめざす。 <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学・短大・専門学校担当者による進路ガイダンスを実施し、より適切な進学指導を行う。 オープンキャンパスへの積極的な参加を奨励する。 	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 進路についての保護者説明会の開催各学年年間1回以上[R4:3回] 進路に関する講演会開催 年3回以上 [R4:2回] <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 面接練習開催 年4回以上[R4:4回] 就職について、1次内定率70.0%以上、最終的に100%の内定獲得[R4:1次内定率75.0%最終内定率100%] <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒や保護者に進路情報を提供するため校内外の進路ガイダンスを全学年で年に3回以上実施する。[新規] 	

府立淀商業高等学校

4 豊かな心と健やかな体の育成	<p>ア 人間尊重の精神と態度を養う。</p> <p>イ いじめの未然防止と早期発見、早期対応</p> <p>ウ 支援学校との校種間連携を通じた人間性の醸成</p>	<p>ア・イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報共有を図るとともに、個別の支援を必要とする生徒への包括的な支援体制を充実させる。 命の尊さを知るとともに、危機意識を持つことの重要性を知らせる。 いじめアンケートを各学期1回実施し生徒の実態把握に努め、いじめの未然防止に努める。 人権主担を中心としたいじめ防止対策委員会を開催し、いじめアンケートの分析を行い、早期発見、早期解決に努める。 <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> 部活動や学校行事、生徒会活動などを通じて支援学校との校種間連携を年間2回以上実施する。 	<p>ア・イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 特別支援会議の開催 1カ月に1回 [R4:10回] 「命の大切さ」講演会の実施 年1回以上 [R4:1回] 生徒向け学校教育自己診断「先生は子供の悩みや相談に親身になって応じてくれる」の肯定的回答率70%を維持する。 [R4:80.6%] 有事以外にも各学期1回開催する。[新規] <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒会での部活動交流 年1回[R4:1回] 文化祭での支援学校の生徒の作品展示による交流 年1回[R4:1回] 	
5 学校の組織力の向上	<p>(1) 教職員研修の充実</p> <p>ア 教職経験の少ない教員のスキルアップを目的とした研修の実施</p> <p>イ 教職員研修の実施</p>	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職経験3年までの若手教員の資質の向上を図る研修等の取り組みを行い、スキルアップを図る。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 防災訓練とともに安全点検(学期終了時)や救急処置講習会等を実施し、防災安全に努める。 各種の教職員研修を計画的に実施する。 <ul style="list-style-type: none"> 教職員人権研修 体罰、暴力行為等防止研修 教職員コンプライアンス研修 特別支援に関する研修会 	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学期1回以上の研修や授業観察の実施 [R4:3回] <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 防災訓練年2回、救急処置講習会実施 年1回以上 [R4:防災訓練2回、救急処置1回] 教職員人権研修実施 年2回以上[R4:2回] 体罰、暴力行為等防止研修の実施 年2回以上[R4:2回] 教職員コンプライアンス研修を開催 年1回以上[R4:3回] 特別支援に関する研修会や連絡協議会の開催 各学期1回以上[R4:3回] 	
	<p>(2) 教職員の働き方改革</p> <p>ア 時間外勤務の縮減</p> <p>イ 働きやすい職場環境作り</p>	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 長期休業中の学校閉庁日を活用し、また、部活動において週に1～2回の休養日を設定することで、時間外勤務の縮減を図る。 時間外勤務対象者の状況を常に把握し、身体的・精神的な負担度の確認に努める。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 管理職の巡回や教職員からの報告により施設設備面での破損・故障箇所を把握し安全で働きやすい職場環境づくりをめざす。 	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 1か月の在校等時間 60時間以内の教員数 90.0%以上[R4:82.0%(41/50名)] 管理職による状況把握[R4:100%(9/9名)] <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 管理職の校内巡回1日1回以上実施 	